

記憶のユニット としての行為連鎖

浅尾仁彦
(名古屋大学)

Sep 12, 2015
認知言語学会第16回大会
於 同志社大学

本発表の趣旨

- 「行為連鎖の枠に収まっている」ことと、「生産性がない=語彙化している」とのあいだには、結びつきがある
- 日本語と英語のコーパスでこれを確かめる
- この事実は認知的に動機づけられており、また文法現象に影響している

「行為連鎖の枠に
収まっている」とは

結果構文 (+使役移動構文) と
(使役変化) 複合動詞

- 汚れを洗い落とす
 - wash the dirt off
-

複合動詞の意味限界 (語彙概念構造を用いた表示)

- [x ACT(-ON y)] CAUSE [BECOME [z BE-AT w]]

(浅尾 2007)



複合動詞の意味限界

- *彼女は財布をなくし探した。

(浅尾 2007)

cf. 彼女は財布をなくしてしまったので、探している。

生産的な使役構文には このような制約はない

- 太郎は次郎に自由に遊ばせた。
- 太郎の意志と次郎の意志の両方が介在
- *Taro let Jiro go.*

構文の生産性： 方法

行為連鎖と生産性

- (使役変化) 複合動詞や結果構文は、生産性の低さを特徴とする
- これをまず定量的に示す

生産性に関する

これまでの指摘 (日本語)

- 浅尾 (2007), 松村 (2007) などで、相対的な低さを数値化
 - たたき切る
 - ??蹴り切る
- なお、いわゆる統語的複合動詞 (使役変化ではない、「始める」「続ける」「-得る」「-過ぎる」など、アスペクト・程度・可能などを表現する複合動詞) の生産性は高い

生産性に関する

これまでの指摘 (英語)

- Goldberg 1995, Boas 2003, 2005, Goldberg and Jackendoff 2004 などが生産性の低さを指摘
 - *She shot him dead.*
 - ??*She blasted him dead.* (Goldberg 1995)
- “派生形態論的” (Goldberg & Jackendoff 2004: 558)
- ただし、生産性は直接数値化されていない

生産性の数値化

(Baayen 1992)

$$\text{生産性 } P = \frac{n_0}{N}$$

hapax legomena
(コーパスにただ一度だけ出現した表現の数)

トークン頻度

生産性の数値化 (Baayen 1992)

Verb	Token freq.
slam	71
snap	23
squeeze	22
pull	20
bang	15
screw	9
bolt, slam, cram, crash, slam, haul, seal, sow, shoulder, slap, squelch, tap, wedge	1
合計	207

- 結果補語 *shut* とともに使われる動詞 (Boas 2000)

$$\text{生産性 } P = \frac{n_0}{N}$$

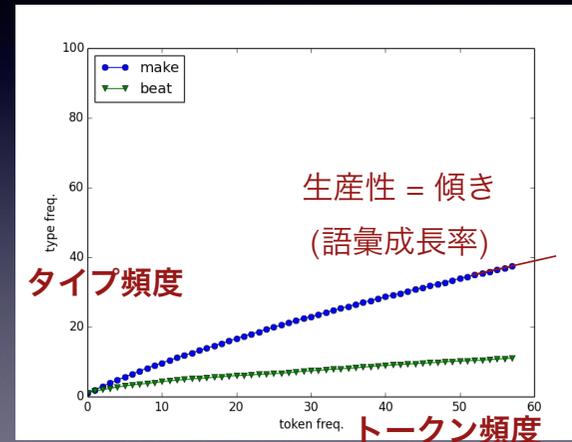
0.063

13

207

今回は分母を統一

生産性 = 語彙成長率



構文の生産性： 結果

日本語 複合動詞の生産性

動詞	$n_0/100$ 語
-始める	39.99
-続ける	33.79
-過ぎる	25.50
:	
-込む	8.47
-取る	6.85
-入れる	4.84
-立つ	4.12
-去る	3.26
-寄る	2.02
-起こす	1.64

(統語的)複合動詞

データ: CD 毎日新聞
データ 95

(語彙的)複合動詞

英語 結果構文の生産性 (結果補語ごと)

- データ: Boas (2000) による BNC の網羅的な調査

結果補語	$n_0/100$ 語
off	37.43
to death	18.24
open	9.23
apart	9.11
to sleep	8.47
to pieces	6.85
clean	4.84
dead	3.01
mad	0.07

英語 結果構文の生産性 (動詞ごと)

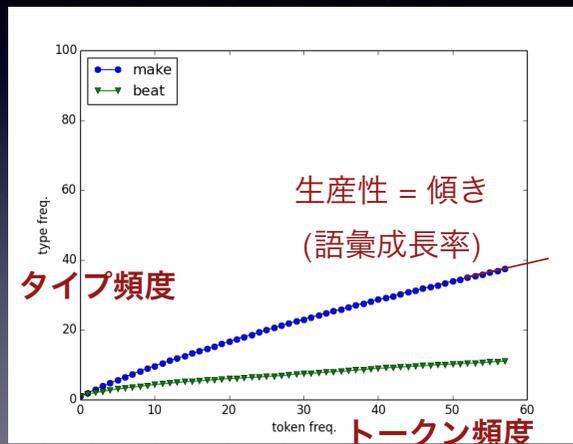
- データ: Boas (2000) による BNC の網羅的な調査

動詞	$n_0/97$ 語
sweep	3.98
wipe	3.25

- データ: COCA (目的語が代名詞、結果補語が形容詞のもの限定)

動詞	$n_0/58$ 語
make	29.63
beat	7.00

グラフで見る 語彙成長率



行為連鎖の枠に収まる構文 ⇔
生産性の低さ

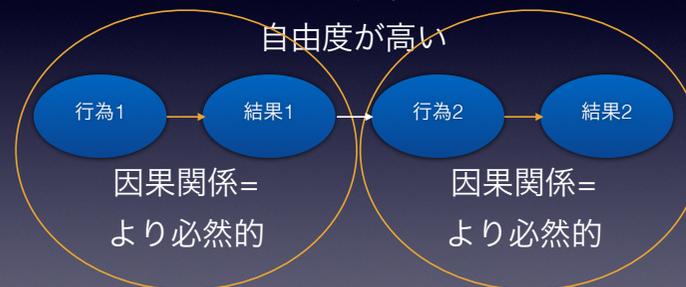
行為連鎖の枠に収まる構文

⇔ 生産性の低さ

- 日本語においても英語においても、行為連鎖の枠に収まるような性質をもった構文は、生産性が低いと言える。

行為連鎖の ゲシュタルト性

意志が介在 =
自由度が高い



形式が「語」であるかどうかは 無関係

- 日本語では「複合動詞」という「語」で、英語では相当する内容が、動詞句レベルの構文で表現される
- これは日本語と英語の類型的な違いであり、生産性や意味内容との結びつきはない

生産性の低さは
文法に影響する

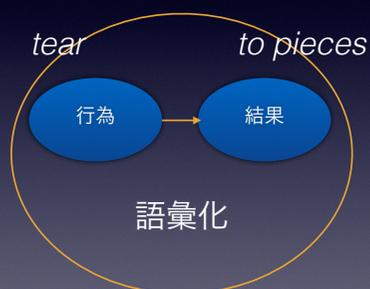
代用形（日本語）

- 語彙的複合動詞は、代用形への置き換えを許さない (影山 1993)
 - 本を読ませる → そうさせる
 - ごはんを食べ始める → そうし始める
 - 木を切り倒す → *そうし倒す

代用形（英語）

- 英語の結果構文も、代用形への置き換えを許さない (Nishiyama 1998)
 - *John didn't start out silly; Mary made him so.*
 - *John didn't start out silly; *Mary beat him so.*

代用形の可否と 語彙化



- 生産性が低い＝語彙化している＝意味を構成的に計算しなくても、全体を記憶している
- 代用形の使用は、全体を覚えている表現について、分析を強制する

まとめ

まとめ

- 行為連鎖は、単に事態把握のパターンというだけでなく、語彙化のユニットである
 - このことを定量的に確かめた
 - その背後には認知的なモチベーションがある
 - このことは文法現象に影響を及ぼしている

ご質問・ご意見は asaokitan@gmail.com まで
スライドは <http://asaokitan.net/> で公開します